

報道機関各位

～一人でも多くの命を救うために～ 実災害を想定した 3日間の救護員養成研修会を実施

日本赤十字社埼玉県支部(支部長:大野元裕埼玉県知事)では、県内外で発生する災害や広域災害に備え、発災時に迅速な救護活動を展開できるよう、平時から継続的に救護員の養成に取り組んでいます。

今般、さいたま赤十字病院、小川赤十字病院及び深谷赤十字病院等の医師・看護師・薬剤師・事務職員等のうち、新たに任命された赤十字救護班要員35人を対象に、2泊3日の「日本赤十字社埼玉県支部救護班要員研修会」を実施します。

本研修会では、能登半島地震をはじめ災害現場で活動・経験を有する多数の指導スタッフによる講義・実習を行うほか、最終日には列車脱線事故による多数傷病者の発生を想定した総合演習を実施します。

実際の災害現場さながらの状況の中で、救護活動に必要な判断力や連携力を養い、災害時に迅速かつ的確な救護活動を行うための実践力を高めます。

■取材ポイント

- ・新たに任命された赤十字救護班要員35人を対象とした2泊3日の養成研修会
- ・能登半島地震をはじめ災害現場で活動経験を有する多数の指導スタッフによる講義・実習
- ・研修会3日目には、列車脱線事故による多数傷病者発生を想定した総合演習を実施
- ・総合演習では、受講者に事故内容や傷病者情報を事前に知らせず、トリアージタグを用いた傷病者判定から適切な処置、医療機関への搬送までを実践

■概要

【日時】 令和8年6月26日(金)9:25～11:50

※3日間にわたる研修の最終日(総合演習)

【場所】 いこいの村ヘリテイジ美の山

(秩父郡皆野町皆野3415)

【参加者】 赤十字病院(さいたま・小川・深谷)の医師、看護師、薬剤師、事務職員等 35人

日赤災害医療コーディネーター、日本DMAT隊員、
救護班指導スタッフ 含め 合計約85人

【内容】 裏面スケジュール参照

■取材について■

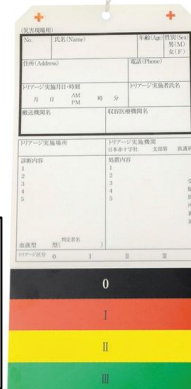
ご取材いただける場合は、6/25(木)正午までに別紙「取材連絡票」の送付をお願いします。



トリアージタグを用いて傷病者の優先順位を判定する訓練の様子

トリアージタグとは:

多数傷病者発生時に、傷病者の重症度・緊急度と治療優先順位を示す識別票



【連絡・問合せ先】

日本赤十字社埼玉県支部 総務部 総務課 西野・山田

広報担当者連絡先: 090-7255-1766 TEL: 048-789-7103

FAX: 048-834-1520 E-mail: koho@saitama.jrc.or.jp

訓練スケジュール

日 程	主な訓練内容
6月24日(水) 12:00～18:10	<ul style="list-style-type: none"> ・災害医療概論【講義】 ・日本赤十字社の災害救護活動【講義】 ・救護所設営(救護テントの設営、ベッド・点滴台の設置等)【実習】 ・局地、近隣災害について【グループワーク】 ・広域災害救急医療情報システム(EMIS)【講義・実習】 など <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
6月25日(木) 8:30～17:45	<ul style="list-style-type: none"> ・超急性期の災害医療対応に必要なスキル(トリアージ)【講義・実習】 ・災害救護の実際(発災から撤収まで)【グループワーク】 ・災害時の外傷症例の評価、医療セットの取り扱い、現場救護所の運営、業務用無線等の取り扱い等【職種別講義・実習】 ・多数傷病者発生時における病院受け入れ対応【講義】 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

6月26日(金)
8:30～15:35

・実災害を想定した総合演習 (列車脱線事故による多数傷病者発生を想定)

取材対象時間帯
9:25～11:50



発災時、すぐにチームを派遣！日赤救護班とは？

日赤の災害救護活動の歴史は、1888（明治21）年に起きた福島県磐梯山噴火災害にまで遡ります。それまでは戦時救護の対応のみでしたが、噴火の一報を受け、急きょ災害時の救護員派遣を検討。当時の皇后陛下（昭憲皇太后）からの後押しもあり、医師の派遣を決定しました。これが、日赤として最初の災害救護活動です。赤十字病院が誕生したのも、実は救護員養成のため。1901（明治34）年には「天災救護規則」が定められ、災害時には救護班が派遣されるようになりました。

現在は、全国490班 6,226人（令和7年3月31日現在）の救護班が、病院での業務を行いながら、研修や訓練を通じて、災害救護に必要な知識や技術を身に付け、発災時にいち早く駆け付けて救護活動ができるように体制を整えています。各支部には、救護に必要な各種車両や無線、テントや照明機器などの物的リソースの他、救護班をはじめ、こころのケア要員や原子力災害医療アドバイザーなど、多彩な人的リソースも有し、災害に備えています。



日赤初の災害救護「磐梯山噴火」(1888年)



埼玉県支部では、
救護班を10班、
常に備えています

救護班
構成(例)
助産師や薬剤師
が帯同すること
もあります



災害における救護員出動数
（令和6年度）：905人

救護車両（令和7年3月31
日現在）：2,183台

救護班の主な活動は？

救護班の主な活動は、「応急医療」「助産」「巡回診療」などがあります。被災地に出動すると、災害対策本部などと連携・調整し、けがをした人の治療の他、避難所を中心とした被災者の巡回診療、現地の病院業務の支援などを行います。近年では、被災した方たちへのこころのケアも重要な活動であり、専門医師だけでなく、看護師やボランティアもその役割を担います。積極的に被災者の話に耳を傾け、必要なケアを通じて、自分の力で立ち上がるための手助けを行っています。

救護班による救護活動の他、救援物資（毛布、安眠セット、緊急セットなど）の配布や緊急仮設診療所となるdERU(domestic Emergency Response Unit / 国内緊急型対応ユニット)の設置なども、救護活動の一環として日赤が担っています。

会場案内

いこいの村ヘリテージ
美の山
【駐車場】
秩父郡皆野町皆野
3415



駐車場

訓練
会場

取材連絡票

FAX : 048-834-1520

取材案件名	日本赤十字社埼玉県支部 救護班要員研修会
御社名	
部署名	
担当者名	
連絡先 ※今後当社から取材関連の ご連絡をさせていただきます	TEL : e-mail :
媒体名	
取材目的・ご希望	
放送・発行予定日	<input type="checkbox"/> 令和 年 月 日 <input type="checkbox"/> 未定
スタッフ数・機材	(<input type="checkbox"/> 人 <input type="checkbox"/> カメラ ・ <input type="checkbox"/> スチール)
放送・発行内容の 転載可不可	<input type="checkbox"/> 可 ・ <input type="checkbox"/> 不可 ・ <input type="checkbox"/> 応相談